

「稲盛科学研究機構（InaRIS）フェローシップ」創設趣意書

私は、「人のため、世のために役立つことをなすことが、人間として最高の行為である」そして、「人類の未来は、科学の発展と人類の精神的深化のバランスがとれて、初めて安定したものになる」という信念から、1984年に「京都賞」を創設しました。以来34年にわたり、人類社会の進歩発展にいささかでも貢献できればとの願いから、京都賞顕彰事業を中核に、研究助成事業、社会啓発事業の三本を柱とした事業展開を通じて、今日まで活動を続けてまいりました。

このたび、稲盛財団設立35周年を迎えるにあたり、知的好奇心に導かれた真理の探究や基礎科学の社会的意義が尊重される文化の醸成を目指し、新たな取り組みとして「稲盛科学研究機構（Inamori Research Institute for Science: 略称 InaRIS）フェローシップ」を創設いたします。

私は今でも、革新的な技術開発や新たな科学的発見のためには、自らの持つ無限の可能性を信じ、決して諦めることなく創意工夫を重ね、一步一步弛まぬ努力を続ける以外に道はないと思っております。そうした長年にわたる地道な努力の積み重ねが、人智を超える技術を生み、新たな発見を導くのです。研究者とは、自らが立てた目標に対し、執念ともいえるような強い思いを持ち続け、決して諦めることなく、成功するまで必死の努力を継続できる人でなければなりません。

InaRIS フェローシップは、そのような研究者を積極的に支援するための取り組みです。公募によってInaRISフェローを選び、10年間にわたって研究資金を提供することで、フェローが自由な発想や斬新なアイデアを活かしつつ、粘り強く研究を行えるよう強力に支援してまいります。また、InaRISは、キャンパスや建物を持たないネットワーク型の研究機構（仕組み）です。このような形態をとることによって、フェローをつなぎ、互いに切磋琢磨する「場」を創造いたします。長期にわたる研究を続けるには、フェロー自身の力だけでなく、同じような夢や情熱を持つ研究者同士の交流や自由な議論によって生み出される創造力も大変重要な要素だと考えているからです。

InaRIS フェローシップが支援するのは、成果が確実に積み上がると予想される研究というよりも、壮大なビジョンと大きな可能性を秘めた研究です。また、私たちの生活にすぐに影響しなくても、真理へ導き、豊かな精神を育んでくれるような、常識を打ち破る発見も大変重要だと考えております。InaRIS フェローシップは、研究課題だけではなく、研究者の持つ志や熱意、そして未知なる領域へのあくなき挑戦心、すなわち「人」そのものを応援する制度です。

このような試みにより、新たな価値観が構築されること、そして人類社会が直面している課題が解決されることを願っております。さらには、人知れず努力を重ねる世の多くの研究者への刺激剤となり、未来の人類社会の発展にいささかでも貢献し、次代を担う研究者に希望をつなぐ役割を果たすこととなれば、この上なく幸せに思います。

2019年2月15日

稲盛 和夫